

第3回 仙台市総合計画審議会都市の魅力部会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年10月25日（月） 14：00～16：00
会 場	仙台市役所本庁舎 2階 第2委員会室
出席委員	宮原育子部会長、間庭洋部会長代行、阿部初子委員、石川建治委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、西大立目祥子委員、増田聡委員、柳井雅也委員 [11名]
欠席委員	大滝精一委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、高野秀策委員 [4名]
報告者	北波克彦氏、南部陽菜氏
仙 台 市	企画調整局長、企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹(2)、青葉区役所区民部長、宮城野区役所区民部参事、若林区役所区民部参事、太白区役所区民部長、泉区役所区民部長
次 第	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業の実施状況について (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について (3) 区別計画について (4) その他 3 閉会
配付資料	資料1 市民参画事業の実施状況について 資料2 まちづくり市民フォーラム結果報告 資料3 基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の概要 資料4 基本計画（中間案）の区別計画について 資料5 審議会日程（案）

会議の概要

議事

(1) 市民参画事業の実施状況について

(2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について

- ・事務局から資料1及び資料2を基に説明した。加えて、「まち歩きフィールドCafe」については、報告者2名から当日の活動内容や感想を報告した。
- ・市民力をテーマとした取組の報告後、引き続き中間案の市民力関連部分の見直しの方向について意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・多様な市民活動が行われており、広報もされているが、関心がないと情報は通り過ぎてしまう。

そういう仕組みづくりに今回の取組の参加者が自主的にプランニングにかかわれる場づくりというものもあると思う。それが単発で終わらないようにすることが重要な課題である。

- ・計画策定に限らず、こういう市民フォーラムのような機会が増えていけば、仙台のまちがもっとよくなると思う。
 - ・市民には潜在的に「何かやりたい」という気持ちがあるが、それをいかに実現につなげるかが難しいけれども重要なこと。
 - ・個々の力がつながっていくことで始めて市民力が発揮されるが、情報がうまく伝わらず、つながっていないという状況もあるようだ。情報の整理も重要。
 - ・これからは企業もきちんと社会に企業の力を生かしていくという立場に立たないと、市民力も生かされていかないのではないか。
 - ・日々の暮らしが当たり前前に営め、いざというときには必要な行政サービスを受けられるという整備がされていないと、なかなか社会にかかわっていきこうという機運が生まれがたい。積極的に取り組んでいる人たちがいる反面、取り残されたと思っている人たちがどのように社会につながりを持っていくのかというところは、これから検討すべき課題。
 - ・市民力を育成するのは大事なことだが、市民力を発揮しやすくするのが最終的な目標であって、そのために必要なこととして育成も入っている。すべて育成に流れないようにした方がいい。
 - ・学びについてうたっているのは特徴だが、学んで育った力を発揮してほしい、その力でまちづくりに参加してほしい、というメッセージをもう少し明確にうたってはどうか。
 - ・市民力を発揮して、10年後にこういう姿を目指すということが市民に伝わったほうが計画として分かりやすい。地下鉄東西線についても開通後のまちのイメージをもう少し組み込んでもいいのではないか。
 - ・全体的に「仙台市がやってあげる」というふうにとらえられると誤解を招く。老若男女、子どもにも学生にも能力を発揮して参画してもらいたい、あなたたちが主役ですよ、ともしっかりうたってもいい。
 - ・なぜこれだけ市民力を大切だと考えるのか、市民力を育成してどのくらいのものにしていききたいと考えるのかが、少しあいまいな気がする。また、市民力の定義が後の方に1行か2行出てくるが、もう少し前で、もっときちんと提示した方がいい。
 - ・市民力に関しては、やりたいけどやれないという人の参加の仕方をどうするのか、組織を維持していく力をどうするか、参加した人たちの力の発揮の仕方をどうするのかということを議論してきた。街中のいろいろなところに拠点をつくり、ふらっと行ったらそこにきちんと情報があって参加にすぐつながっていけるようなプラットフォームをつくっておかないと、「どうすればいいんだ」という話になってしまう。
- ・事務局から資料1及び資料3を基に説明し、「市民力」以外部分の見直しの方について意見交換を行った。
- <主な意見等>
- ・区民意見交換会では、10年後を目指してというふうに示している一方で、参加者からは現実に関心地域で起きている問題を解決していかないと見えてこないという意見が結構あつ

た。

- ・10年後の仙台はこうあるべきだと立派な絵を描いても、根拠となる財源がなければ絵にかいたもちで意味がないという意見が多かった。財政のあり方について、整理して分かりやすく示して議論していく必要がある。
- ・いただいた意見をどうやったら実行できるのかが課題。基本計画に施策を載せるか載せないかは市の各課にとって重要なので、行政内での交渉が活発に起こっていると思うが、それとこの意見をどうやって整合させるかということを外から見えやすくして行うためには、審議会も言うべきことは言うということで動くのだろうと思っている。
健全な財政運営と市民力を基本にしたまちづくりで厳しい時代を乗り越えていくというスタンスは共通認識だと思うので、それを重点的にどう位置付け、施策を具体的にどうするのかという作業を、できること、できないことを見極めながら努めていきたい。
- ・市民の意見には、論点について、おおむね合意ができている部分と、対立とまでは言わないが、力点の置き方が違う部分があると思う。今はまだ決められないにしても、課題として残っているということでパブリックコメントにまず意見を返す回答責任があると思う。各種意見については、12月中にどのように反映するかという方向性をお知らせすることを予定している。
- ・方向性の違う意見ということでは、都市機能集約ということと都市軸上にはない地域の利便性向上ということがある。現実には両方やらざるを得ない話だろう。時間軸でとらえて、長期的には都市軸への集約を目指し、短期的には都市軸上にはない地域への対処も必要だが、長く将来にわたり行うものではないというスタンスを入れることも必要。
- ・計画自体の「仙台らしさ」ということについて、議論がうまく深化されていない。それもこれから10年で取り組むべき課題なのかなと思う。
- ・一般に言われる「コンパクトシティ」は同心円状のもので、仙台には当てはまらない。市民にこの計画でいうコンパクトシティはこうだということをきちんと説明する必要がある。
「仙台らしさ」という部分で、長年の経過の中での自然を生かした土地利用のゾーニングを踏襲すべきだし、都市構造としては東西線の新たな都市軸の形成と都市軸以外の利便性や暮らしやすさをどう高めるかが論点。交通ネットワークとしては、地下鉄を基軸としてバス路線をどう再編するかが論点で、具体的にどう表現していくかが課題と認識している。
- ・高齢化への備えやオフィスの空室といった現実を一つ一つクリアしていかないと、次の理想にはつながっていかない。理想の行き先を設計しながら、もう一度足元のところから落とし込んでいって、まとめる必要がある。
- ・少子高齢化問題にどう地域が対応するかということに関して、地域コミュニティの核となるものとして市民センターや学校という既存資源をどうやって利活用するかという問題があり、民意ということで各部局に強引に横串を刺していくアクションがこの総合計画でとれるかどうかということが試金石になる。また、都市間競争の中で仙台が選んでもらえるかということに関して、都市のアイデンティティをどうつくるかということにもなるが、仙台が持つ多様なものをつなぐ東西線で、それぞれの駅のポテンシャルをもっと生かすような施策をやるには、さまざまな所管部局に横串を刺していくことが必要で、そのバック

アップにこの総合計画がなると素晴らしい。しかし、実際にはとても難しいことも認識している。敵をつくるのではなく、一緒に巻き込んでやっていかなければ成功しないので、じっくりとしたたかに、かつ、戦略的に実行していく必要がある。次回いくつかのたたき台が出て、創造的な、建設的な議論ができるといい。

- ・例えば地下鉄東西線の建設は市民全体としては決めたことだが、建設に反対していたグループとのつながりを切ってしまうのではなく、次の展開として、活用策や利用促進策などについて、話を持っていかないと先に進まない。いろいろな人が参加して意見交換する場を立ち上げて、市民力の枠組みをつくるというのが一つ大きなチャレンジだと思う。
- ・副都心と広域拠点の違いは何か確認したい。泉中央地域では、副都心から広域拠点に文言が変わったことで、都心機能ではなく単なる結節機能だけが残るのではと不安に思っている。また、高齢化の一方で、セントラル自動車の関係で新たに数千人単位で泉の住民が増えるので、それを見据えた対応も必要。

副都心については、前基本計画「総合計画2000」で泉中央を含む4か所を副都心として整備するという基本的なまちづくりの方針があった。現基本計画「仙台21プラン」では鉄軌道を重視した面的な機能集約を図っていこうということで、副都心という概念は残しつつ、泉中央と長町は広域拠点という呼び方をしている。泉中央や長町は都市機能の非常に高い地域だとは思っているが、仙台駅周辺の都心とはまた違った機能であり、また、「総合計画2000」で掲げた4か所はそれぞれ特性も違うと理解し、今回は意識的に副都心という表現を外している。

- ・都市構造の将来像は変わっているのだという今のような説明を書くべきではないか。
- ・副都心の定義もはっきりはしていない。それぞれ必要な機能を集めるという広域拠点は一つの論理だと思う。

(3) 区別計画について

- ・事務局から資料4を基に説明し、意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・区役所が中心となって、住民との意見交換から積み上げてきたのだと思うが、素案をつくって各地域の代表的な方に意見を聞いてまとめるということではなく、地域をいくつかのブロックに分けて聞いていく手法もあっていい。

内部でもそういう意見はあったが、なかなかこれからというわけにもいかない。今回の総合計画で、きめ細かい地域政策という重点的な経営方針を掲げているが、それを展開する際には今回行った区別の意見交換会のようなものを地域ごとに開催することが重要なのかと思っている。まち歩きフィールドCafeなどでも、もっと地域でやってほしいと意見があったところ。これからの市民参画を進める仕組みという意味では、今回の総合計画をつくるための意見交換会や市民フォーラムといったイベントの手法が非常に勉強になったので、それを地域でどういうふうに行っていくか考えなければならないし、ご意見があれば修正に生かしたい。

- ・前回、基本構想と基本計画でそれぞれいいことを書いているが、うまく整合していないので区別計画を含めて再構成するという話だったと思うが。

区別計画についても、基本構想、基本計画を横に見ながら整合を図りながら書き直しをして

いくので、現時点で見直しに当たって意見があれば反映したい。

- ・区ごとの計画を出すときには、懸案や重要なことについて、区域をまたがるところのすり合わせをする必要がある。
 - ・森林や山地が三つの区にまたがっている所があるが、横の目で見ることにも必要。同じようなことを同じようにコストをかけてお互いにやるのは無駄になる部分もある。
 - ・市民の暮らしの現場で潜在化・顕在化している問題が市役所本庁にどうフィードバックされ、施策に反映されていくのかというところを付け加えてほしい。
 - ・市民センターについて、区別計画の中でのとらえ方に凸凹があるし、基本計画の中では位置付けが低い。市民力を育成し、地域課題を解決していくための拠点としての位置付けをして、とらえ直すべき。現在の市民センターでも良い取組を行っているところがあるので、そのノウハウを各区市民センターに広められないかと思う。市民力になりうる市民がまず行くのは市民センターなので、考えを転換してほしい。
 - ・環境の問題を考える場合には、流域ごとに考えていくことが重要で、そういう視点も出てくるとよい。
 - ・市民力という言葉が、前段でたくさん出てくるが、区別計画には区民力という言葉はまったく出てこない。区として市民力を育成し、発揮させるのにどうかかわるかという視点がもっとあってよい。
 - ・前回も示されたが、今、区民力をどう各区が考えるかという宿題が出た。区の領域を超えてかわかる話があるということについて各区はどう思うのか、スピード感を持って考えていただきたい。
- ご指摘の点については、プロジェクトチームをつくって作業を進めているが、市民意見収集の過程にあり、資料がなかなか出せず申しわけない。
- ・区役所制度をどうするかという長年のテーマがあるが、区のビジョンを持つとすれば、そのビジョンをつくるのはだれで、実現するのはどういう組織かも少し書き込む必要がある。さらにどういう体制で実現するかというときに、狭域レベル、区レベル、全市レベルそれぞれがどういう関係にあるかも重要なテーマとして書き込みが必要。
 - ・各区で「元気な高齢者をつくれます」とうたっているが、実際には福祉が必要になる方もいる。そこが具体的に言葉として出てこないし、あまり見えない。また、農業振興や地産地消はうたっているが、農業や商店街の後継者問題がうたわれていないのが気になった。

(4) その他

- ・事務局から資料5について説明した。